

横須賀・三浦構想区域の現状(まとめと論点)

基本的事項

<入院患者推計>
 ・人口は年々減少するが、75歳以上の高齢者は年々増え続け、2015年比で2025年は1.3倍でピークを迎え、その後は減少に転じ、2040年は1.17倍となる。
 ・患者数は、2025年には2015年比1.12倍に、2030年には1.14倍に増加し、その後は減少に転じる。特に65歳以上の患者は2035年まで、75歳以上の患者は2030年まで増え、その後は減少に転じる。65歳未満の患者は年々減少する。疾患別：循環器、呼吸器の増加率が高い。

<要介護者推計>
 ・65歳以上の要支援・要介護者数は、2025年には、2015年比1.23倍(2017年比1.18倍)の46,808人と推計

<病床数の状況(病床機能報告)>
 ・病床機能報告においては、28年度と比較して、高度急性期、慢性期と報告された病床数が減り、急性期、回復期と報告された病床数が増えているが、病床機能別の傾向には大きな変動はない。

入院基本料

<一般病床、7:1・10:1>
 ・自己完結率は79.5%
 (横浜南部に13.0%流出)
 ・流出超過

・7:1、10:1のレセプト出現比は全国平均より若干低い。
 ・救命救急入院、NICUのレセプト出現比が全国平均より高い。

<地域包括ケア病棟>
 ・自己完結率は84.2%
 (横浜南部に9.8%流出)
 ・流出超過

・地域包括ケア病棟のレセプト出現比は全国平均より低い。

<回復リハ病棟>
 ・自己完結率は56.1%
 (横浜南部に29.5%流出)
 ・流出超過

・回復期リハ病棟のレセプト出現比は全国平均より低い。

<療養病棟>
 ・自己完結率は80.3%
 (湘南東部に4.5%流出)
 ・流出入は拮抗

・療養病棟のレセプト出現比は全国平均より低い。

救急医療	<p><救急医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二次救急の自己完結率は82.2%（横浜南部に12.8%流出）。流出超過。 ・二次救急、三次救急体制のレセプト出現比が高い。 		
疾患別の地域特性	<p><がん></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年の入院患者数は全体的に増加するが、最も実数が多いのは肺がん ・がん入院の自己完結率は、最も高い乳がんが80.1%、最も低い肺がんが74.1% ・化学療法(入院)の自己完結率は69.0% ・放射線治療(入院)の自己完結率は67.5% ・乳がんは流入超過。肺がん、胃がん、大腸がん、肝がんは流出超過。横浜南部地域への流出が多くなっている。 ・直腸腫瘍摘除術などレセプト出現比が低い指標もある。 	<p><急性心筋梗塞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自己完結率は85.5% ・流出入拮抗 ・入院関連のレセプト出現比は全体的に全国平均を上回っており、特に心筋焼灼術の出現比が高い。 	<p><脳卒中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院の自己完結率は61.1～77.1%。 ・流出超過 ・超急性期脳卒中、脳卒中中の経皮的脳血管形成術等のレセプト出現比が全国平均より高い。
在宅医療等	<p><在宅医療等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レセプト出現比では、往診や訪問診療、多職種でのカンファレンスに関連する項目などで、概ね全国平均より高く、訪問薬剤指導、在宅リハビリテーション項目が全国平均より低い。 		

【課題・論点】

- 地域における役割分担の進め方、医療機能の過不足について
 - ・病床機能報告においては、高度急性期が多く、回復期が少なく報告されているが、高度急性期・急性期・回復期の間での連携の状況と役割分担をどう考えるか。
 - ・立地的な点も影響し、各項目で流出超過が多く、がん、脳卒中などの疾病、救急で、横浜南部への流出が多いという地域特性は引き続き見られるが、地域における支障は生じているか。
- 医療機関と、在宅医療や介護資源との連携